

第31期 (2011年6月期)

第1四半期連結業績説明資料

2010年 11月

株式会社

ドンキホーテ

Don Quijote Co.,Ltd.

専務取締役兼CFO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki.com>

e-mail : takahashi@donki.co.jp

営業利益33%増

ドン・キホーテ 7~9月期

ドン・キホーテが4日に発表した2010年7~9月期の連結決算は営業利益が69億円と前年同32.9%増の大幅増益となり、四半期ベースで過去最高益を更新した。

時計・ファッションやスポーツ用品など粗利益率の高い商品の販売が好評の一方で、人件費を中心に販管費効率が改善した。資産除去債務会計の適用に伴い7億円を特別損失に計上した影響などで、最終利益は31億円と前年を5億円下回った。

売上高は0.9%増の1,247億円だった。デフレ経済が続く中で、商品ポートフォリオの見直しと中価格帯商品を充実させる施策によって販売単価に回復の兆しが現われ、猛暑効果も伴って主力のドン・キホーテ既存店売上高は1.8%増と好調だった。

なお、11年6月期第2四半期累計期間における業績予想は営業利益を125億円（従来予想は120億円）、経常利益118億円（同112億円）、純利益61億円（同57億円）とそれぞれ上方修正した。



2011年6月期1Q 決算概況

- ✓決算業績概況
- ✓事業別業績概況
- ✓主な資産、負債、純資産の状況
- ✓四半期業績推移
- ✓セグメント情報
- ✓キャッシュフロー、設備投資の状況

ドン・キホーテグループトピックス

- ✓月次販売の状況
- ✓出店状況
- ✓長崎屋復活計画 Ver.4
- ✓ダブルアール誕生
- ✓フィテックとの連携強化

2011期6月期 業績予想

本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

1.1 Q業績概況

1Q決算は、予想を上回る大幅増益で着地！

- デフレの継続や輸出の伸び悩み、円高・株安の進行などを主要因として、回復傾向から減速感も見え始めた足許の商況下で、ドン・キホーテ（以下DQ）グループはお客さまとの対話を進めながら、既存店の収益力強化に注力。
- 価格訴求品のみならず、商品ポートフォリオの組み替えを実施。さらにPB商品を中心とした積極的な商品提案力に猛暑効果も加わって、お客さま支持率が安定。
- 堅実な推移を見せるコモディティ需要にDQ得意の商品群を絡ませたMD効果で、DQ既存店は1.8%増収。一方で、取扱い商品の特性から子会社業績は伸び悩むが、MEGA転換店は収益基盤の強化策とその実験を進めており、来期以降の多店舗化推進のためのノウハウを蓄積中。
- これらのことから、1Q連結業績は、売上高1,247億円（前期比0.9%増）、営業利益69億円（同32.9%増）及び経常利益64億円（同32.3%増）と微増収ながらも大幅増益を達成。
なお、資産除去債務の計上などにより1Q純利益は31億円（同13.5%減）で着地。

2.業績見通し

2Q累計業績予想を上方修正！

- 1Q業績の進捗状況を前提にした2Q累計期間の業績見通しは、売上高は従来予想の2,580億円（同2.9%増）を据え置くものの、営業利益は従来予想比4.2%増の125億円（同12.6%増）、経常利益は同5.4%増の118億円（同8.9%増）及び純利益は7.0%増の61億円（同0.0%増）とそれぞれ上方修正。
- なお、通期の業績予想は、2Q決算発表時に見直す予定。

「エクイティファイナンス」懸念はありません！

- 社債償還資金などに係る資金は「デット」による調達を計画しており、「エクイティファイナンス」を実施する予定はまったくありません！



1Q業績サマリー

【期間：2010年7月1日～2010年9月30日】

(単位：百万円)

連結実績	当1Q実績				前1Q実績		2Q累計公表予想 ※1	
	金額	百分比	前期比	進捗率※2	金額	百分比	金額	百分比
売上高	124,716	100.0%	100.9%	48.3%	123,583	100.0%	258,000	100.0%
売上総利益	32,089	25.7%	104.0%	48.6%	30,857	25.0%	66,000	25.6%
販管費	25,208	20.2%	98.2%	46.7%	25,679	20.8%	54,000	20.9%
営業利益	6,881	5.5%	132.9%	57.3%	5,178	4.2%	12,000	4.7%
経常利益	6,422	5.1%	132.3%	57.3%	4,855	3.9%	11,200	4.3%
当期純利益	3,085	2.5%	86.5%	54.1%	3,568	2.9%	5,700	2.2%
1株利益	42.78円		83.0%	57.7%	51.56円		74.19円	

※1. 業績予想は2010年8月18日に公表したものであります。

※2. 進捗率は第2四半期累計期間に係る業績予想に対する進行割合を表しております。



1Q連結業績概況コメント

▶ 連結売上高：1,247億円（前期比0.9%増）

DQ既存店は、お客さま数が安定して推移しており、時計、ファッションなどの嗜好性商品やスポーツ・レジャー用品などの販売促進を強化したことから1.8%増と順調に推移。

半面、日用雑貨品は好調な推移を示すものの、取扱い商品の特性やデフレの進行、天候不順の影響などで、子会社が若干伸び悩む。

▶ 当1Q末店舗数：221店（前期末220店）

新規出店4店（うち、DQ2店、ドイト1店、会員制ホールセールクラブの実験店WR1店）、長崎屋の業態転換は3店、閉鎖3店。

▶ 連結売上総利益：321億円、同率：25.7%（前期比0.7pt改善）

お客さまへの的確なアプローチが奏功し、ひと頃よりも中高価格帯商品へのシフトが進み、併せて粗利益率の高い商品群の販売シェアが高まったことなどで、売上総利益率は0.7pt改善。

▶ 販管費：252億円（同1.8%減）、販管費率：20.2%（同0.6pt改善）

ドンキ流オペレーションが子会社に根付き、経営効率はますます進化。

なお、連結労働分配率は31.8%。これは子会社負荷が大きく金融危機直後の08年7～12月期から4.7pt改善。

▶ これらのことから、営業利益69億円（同32.9%増）、経常利益64億円（同32.3%増）といずれも大幅増益を達成し、四半期最高益を更新。

▶ 当期純利益31億円（同13.5%減）

資産除去債務8億円計上などの影響あるものの1Q予想の28億円を上回って着地。



1Q連結業績概況

(単位：百万円)

	当1Q		前1Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	124,716	100.0%	123,583	100.0%	100.9%
売上総利益	32,089	25.7%	30,857	25.0%	104.0%
販管費	25,208	20.2%	25,679	20.8%	98.2%
給与手当	8,514	6.8%	8,995	7.3%	94.7%
地代家賃	4,549	3.7%	4,383	3.6%	103.8%
支払手数料	2,963	2.4%	2,774	2.2%	106.8%
減価償却費	2,089	1.7%	1,923	1.6%	108.6%
その他	7,093	5.7%	7,604	6.1%	93.3%
営業利益	6,881	5.5%	5,178	4.2%	132.9%
経常利益	6,422	5.1%	4,855	3.9%	132.3%
当期純利益	3,085	2.5%	3,568	2.9%	86.5%
1株当たり純利益	42.78円		51.56円		83.0%

1Q事業別業績概況コメント

▶リテール事業1,198億円（前期比1.4%増）

*「家電製品」

政策効果による恩恵は軽微にとどまったものの、緩やかな伸長状態のため、今後に期待。

*「日用雑貨品」

DQが牽引し、堅調な推移を見せる中で、MEGA店含む長崎屋の仕入れ及び販売体制に好影響が表れており、引き続き伸長。

*「食品」

前々期・前期において販売高が急伸したことから、当期は調整期の位置付けで抑制方針としており、予想通りの展開。

*「時計・ファッション用品」

DQにおける販売動向は改善傾向にあるが、GMS店における衣料品の回復力が弱い。

*「スポーツ・レジャー用品」

猛暑効果もあって、好調な推移。

*「DIY用品」

プロユース商品は、堅実な販売状況が続いているものの、天候不順（多雨、低気温）の悪影響が響いて、園芸関連、外装建材、塗料などが不振。

*「海外（ハワイ）」

オリエンタルフードを中心とした「食品」が地元需要を取り込んで、お客さまの定着率が高まっており堅調な実績推移。なお、USドルベースでは0.2%減。（ご参考 当1Q：1\$=91.4円、前1Q：1\$=96.7円）

▶テナント賃貸事業40億円（同4.1%減）

一部のテナント事業者の撤退や縮小及びMEGA店展開のための営業期間ロスやテナント数減少のため。



1Q事業別業績概況

(単位：百万円)

	当1Q		前1Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	119,844	96.1%	118,167	95.6%	101.4%
家電製品	12,828	10.3%	12,391	10.0%	103.5%
日用雑貨品	26,455	21.2%	24,823	20.1%	106.6%
食品	33,840	27.1%	34,214	27.7%	98.9%
時計・ファッション用品	27,222	21.8%	27,585	22.3%	98.7%
スポーツ・レジャー用品	8,982	7.2%	8,257	6.7%	108.8%
DIY用品	4,272	3.4%	4,511	3.7%	94.7%
海外	3,921	3.1%	4,153	3.4%	94.4%
その他商品	2,326	1.9%	2,232	1.8%	104.2%
テナント賃貸事業	3,966	3.2%	4,136	3.3%	95.9%
その他事業	905	0.7%	1,279	1.0%	70.7%
合計	124,716	100.0%	123,583	100.0%	100.9%

※当期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、報告セグメントを「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。なお、前期実績は当期基準に置き替えたものであります。

主な資産の状況

(単位：百万円)

	10年9月	10年6月	増減額
流動資産	145,744	128,198	17,546
現預金	57,817	41,734	16,083
商品	77,089	74,452	2,637
固定資産	175,894	173,831	2,062
建物等	51,314	49,961	1,353
土地	64,283	64,378	▲95
敷金保証金	34,096	33,674	422
資産合計	321,638	302,029	19,608

主な資産の状況

- ▶ **総資産：3,216億円**
(前期末比196億円増)
主な増加要因は、現預金及び出店に伴う有形固定資産など
- ▶ **現預金：578億円** (同161億円増)
主として当期における設備投資資金を銀行借入れにより調達
- ▶ **商品：771億円** (同26億円増)
好調な販売動向とお客さまニーズを反映した戦略的な商品の積み増しによる
- ▶ **固定資産：1,759億円** (同21億円増)
新規出店3店、業態転換3店などに伴う有形固定資産が28億円増加。

主な負債・純資産の状況

(単位：百万円)

	10年9月	10年6月	増減額
流動負債	128,664	122,005	6,659
買掛金	45,594	42,670	2,924
短期負債 ^{※1}	57,041	53,039	▲4,002
固定負債	84,323	73,264	11,059
社債等 ^{※2}	37,447	34,201	3,246
長期借入金	26,706	20,379	6,327
負債合計	212,987	195,270	17,717
純資産合計	108,650	106,759	1,891
負債・純資産合計	321,638	302,029	19,609

※1 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債、同転換社債

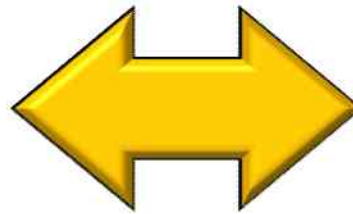
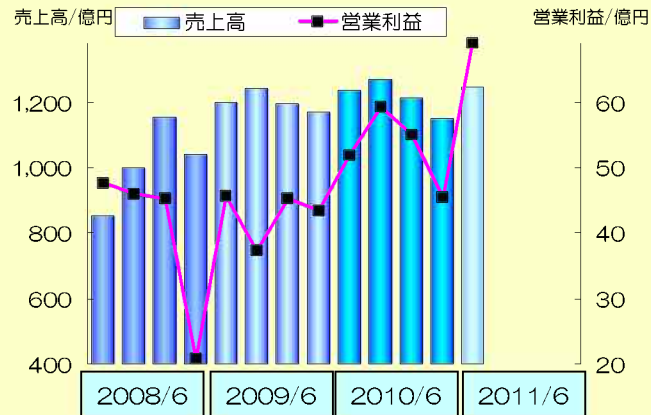
※2 社債等＝社債、転換社債

主な負債・純資産の状況

- ▶ 負債合計：2,130億円（同177億円増）
主な増加要因は、買掛金、借入金、社債など
- ▶ 有利子負債：1,295億円
（同133億円増、依存率40.3%）
- ▶ D/Eレシオ：119.2%、
純負債：717億円（同28億円減）
なお、1年内償還予定の転換社債83億円の大半は10月中に株式への転換が完了。
- ▶ 純資産：1,087億円
（同19億円増、自己資本比率33.3%）

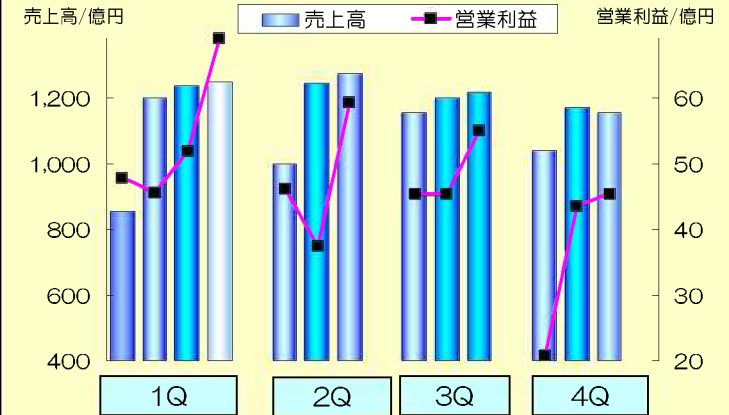
四半期業績推移

四半期業績推移の状況 (A)

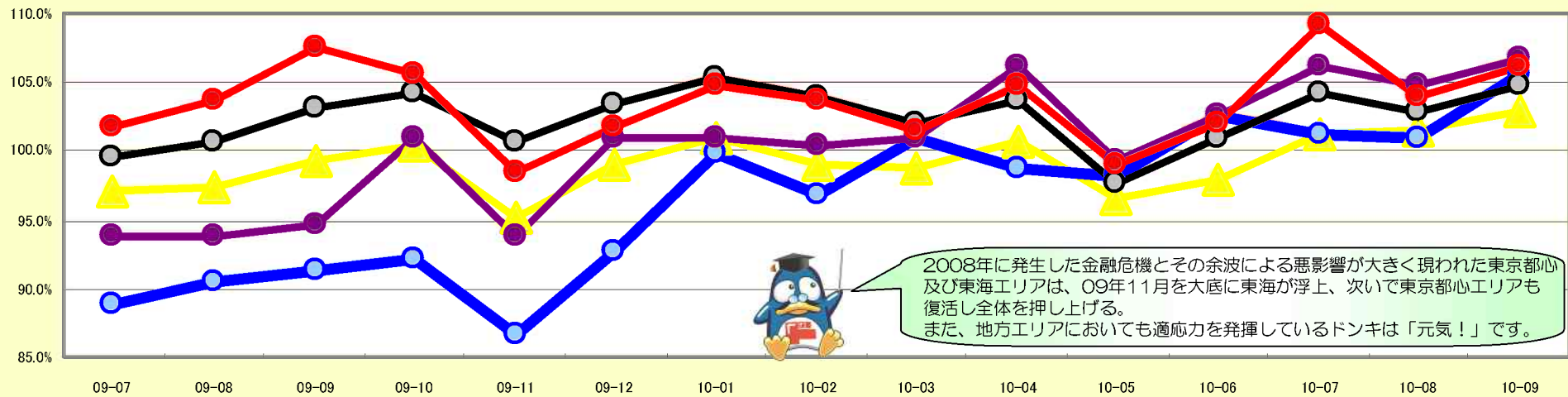


- ◆ DQ既存店全店
- 東京都心エリア
- 関西エリア
- 東海エリア
- 中国・四国・九州エリア

四半期業績推移の状況 (B)



主要エリア別月次販売高の状況



2008年に発生した金融危機とその余波による悪影響が大きく現われた東京都心及び東海エリアは、09年11月を大底に東海が浮上、次いで東京都心エリアも復活し全体を押し上げる。
また、地方エリアにおいても適応力を発揮しているドンキは「元気！」です。

1Qセグメント情報

主力の「リテール事業」の営業利益は微増収ながらも30.4%増の55億円、
「テナント賃貸事業」は減収ながらも18.4%増の12億円といずれも大幅増益を達成！！

当1Qセグメント概要

(単位：百万円)

	リテール事業※	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	119,844	3,966	906	124,716	—	124,716
内部取引等	—	624	224	848	▲848	—
計	119,844	4,590	1,130	125,564	▲848	124,716
セグメント利益	5,473	1,240	116	6,829	52	6,881

前1Qセグメント概要

(単位：百万円)

	ディスカウントストア事業	総合スーパー事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	消去/全社	連結
外部売上高	102,530	16,483	4,136	434	123,583	—	123,583
内部取引等	131	3	631	237	1,002	(1,002)	—
計	102,661	16,486	4,767	671	124,585	(1,002)	123,583
営業利益	4,322	▲125	1,047	83	5,327	▲149	5,178

※当期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、報告セグメントを「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。12
Don Quijote Co., Ltd. 1Q results of FY2011.

キャッシュフロー&設備投資の状況



(単位：百万円)

	当1Q	前1Q	増減額
1.キャッシュフローの状況			
期首残高	38,911	42,040	▲3,129
営業活動CF	5,974	4,474	1,500
投資活動CF	▲19,071	▲3,469	▲15,602
財務活動CF	12,466	▲1,581	14,047
期中増減等	▲911	▲568	▲343
期末残高	38,000	41,472	▲3,472

2.設備投資の状況

設備投資額	2,770	3,759	▲989
キャッシュフロー [※]	5,179	4,864	315
差引	2,410	1,105	1,305

※キャッシュフロー＝純利益＋減価償却費＋特別損失－配当金

キャッシュフロー

<営業CF>

▶税金等調整前純利益53億円に減価償却費22億円及び支払債務31億円が増加要因となる一方で、たな卸資産27億円及び税金支払額37億円が減少要因となったことなどから、60億円の収入

<投資CF>

▶出店に伴う有形固定資産の取得30億円一方で、定期預金の預け入れ純増加額170億円などにより、191億円の支出

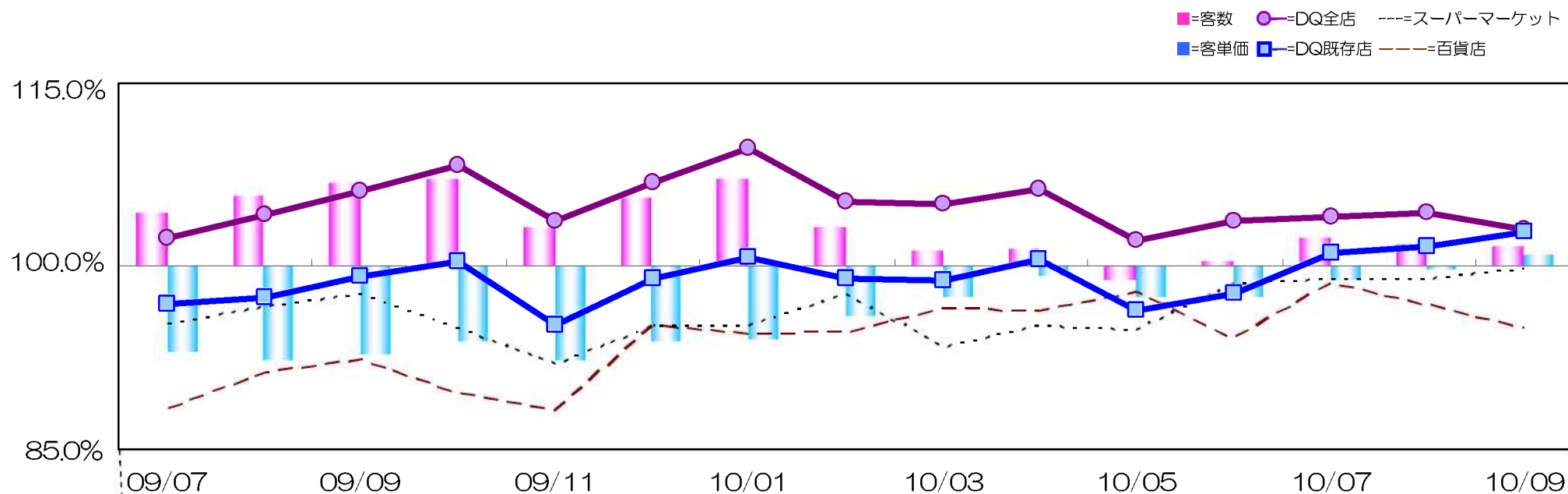
<財務CF>

▶銀行調達による借り入れ及び社債発行による純増加額136億円一方で、配当金支払額11億円などにより、125億円の収入

設備投資

設備投資は28億円（DQ16億円、長崎屋8億円：ただし、敷金保証金回収などを考慮した純増加額は26億円）となるものの、キャッシュフローを52億円獲得したため、フリーキャッシュフローは24億円。

月次販売高の状況



既存店	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	97.0%	97.5%	99.2%	100.5%	95.2%	99.0%	100.8%	99.1%	98.8%	100.6%	96.5%	97.8%	101.2%	101.6%	102.8%
・客数	104.4%	105.8%	106.9%	107.2%	103.2%	105.6%	107.2%	103.2%	101.3%	101.4%	98.9%	100.4%	102.4%	101.9%	101.7%
・客単価	92.9%	92.2%	92.8%	93.8%	92.3%	93.8%	94.0%	96.0%	97.5%	99.2%	97.5%	97.4%	98.9%	99.7%	101.0%
対象店舗数	144店	144店	144店	145店	145店	146店	146店	146店	149店	149店	149店	149店	153店	153店	151店

コモディティ系の「日用雑貨品」が堅実に実績を積み上げている中で、足許の景況感をとらえた「時計・ファッション用品」、「スポーツ・レジャー用品」に回復の兆しが見え始め、猛暑効果の後押しもあってDQ既存店伸長率は1.8%増（客数2.0%増、客単価0.2%減）と安定した伸びを示す。



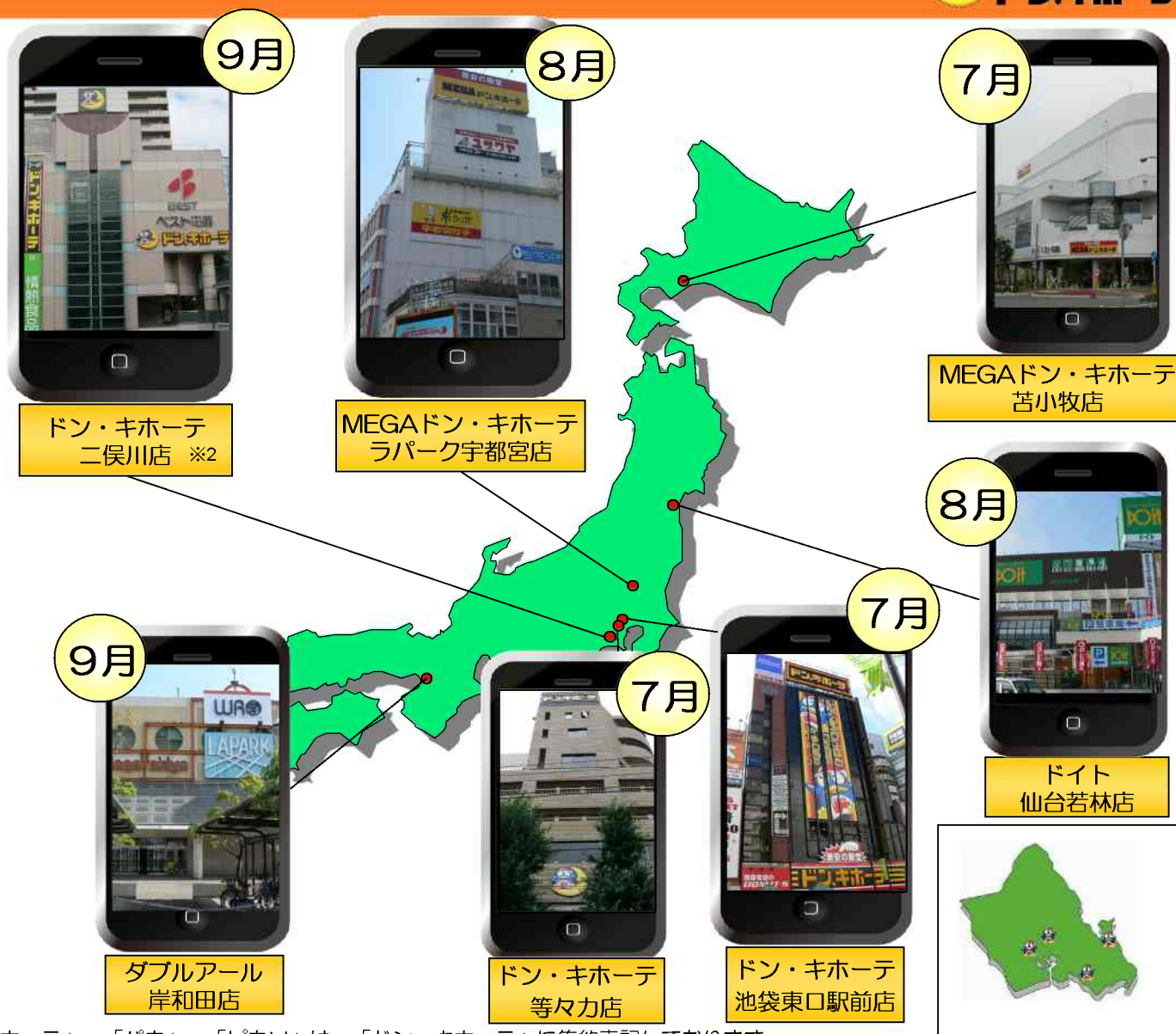
1Q出店状況

フォーマット別店舗数

	2009年 6月末	2010年 6月末	2011年 1Q
ドン・キホーテ	117	126	※1 160
パウ	23	23	
ピカソ	11	11	
M E G A	20	27	30
海外（ハワイ）	4	4	4
ドイト	11	12	13
長崎屋	31	17	13
ビックワン	1	—	—
ダブルアール	—	—	1

法人別店舗数

ドン・キホーテ	150	162	161
長崎屋	46	42	42
ドイト	12	12	13
D Q U S A	4	4	4
ビックワン	6	—	—
ダブルアール	—	—	1
合計	218	220	221



※1. 当期より、店舗業態コンセプトを同じくする「ドン・キホーテ」、「パウ」、「ピカソ」は、「ドン・キホーテ」に集約表記しております。

※2. 二俣川店は「MEGA」としてカウントしております。

※3. 上記の他に、事業効率の見直しにより3店舗を閉鎖しております。

当期ハイライト

既存店における収益力強化を確実なものにしながら、グループネットワークを15店程度拡大予定。
当1Qの新規出店はDQ2店、ドイト1店、WR1店の計4店。
さらに長崎屋はMEGA転換3店、再改装4店実施。

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
D Q	池袋東口駅前 等々力	大宮東口 草加		
長崎屋	苫小牧 宇都宮 二俣川	蓮田 室蘭中島		
ドイト	仙台若林	ラパークいわき		
WR	WR岸和田			

会員制ホールセールクラブ初出店

(株)フィデックへの経営支援発表

CBの繰上償還

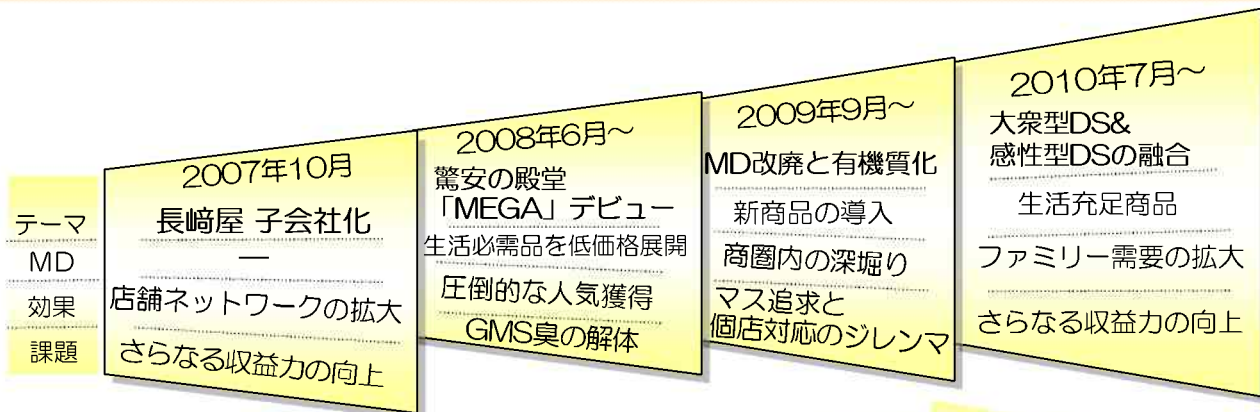
■ = 新店

■ = MEGA

■ = ドイト

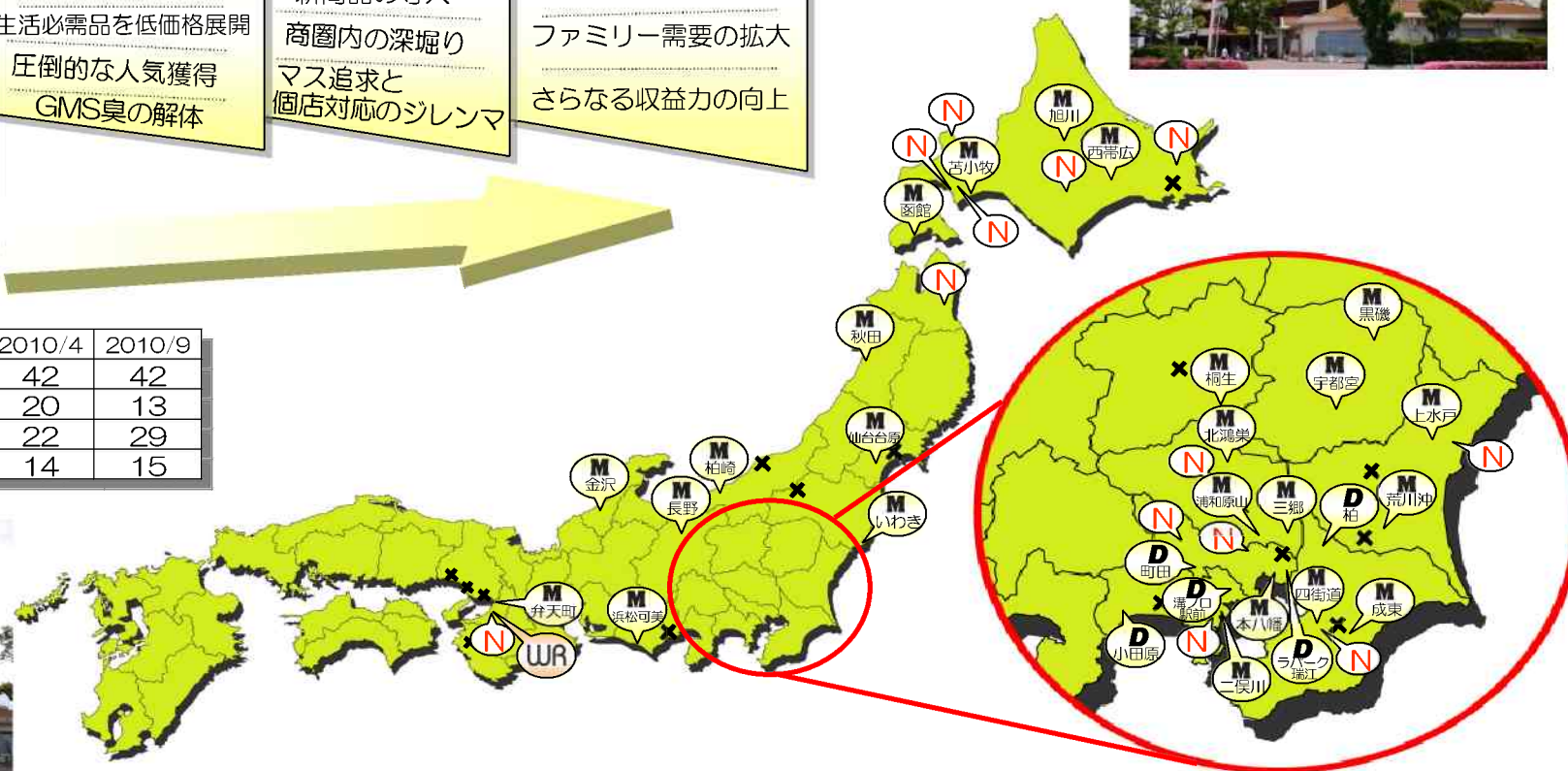
■ = WR

長崎屋復活計画 Ver.4



<店舗数の推移>

	2008/4	2009/4	2010/4	2010/9
営業店舗数	56	48	42	42
GMS長崎屋	56	35	20	13
MEGA/DQ	0	13	22	29
閉鎖	0	8	14	15



来期以降の多店舗出店に向けて、最も注力すべきことは、「MEGA既存店の競争力及び収益力をより強固なものにする」こととして、当期はGMS長崎屋6店の業態転換と併せた重点対応をしております。

ダブルアール誕生！



ラパーク岸和田に 会員制ホールセールクラブ
「WRダブルアール岸和田店」誕生！

狙いは
「買い分け」
の選択肢の提供



2F

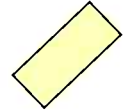
1F

店舗概要

プレオープン日	2010年9月23日
営業時間	10:00~20:00 (日曜日は9:00開店)
敷地面積	39,778㎡
延床面積	79,292㎡
売場面積	12,972㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造・2階建て
駐車台数	1458台

ダブルアール(WR)は「W=Wholesale」、「R=Revolution」の2文字からなるもので、高品質の商品を「卸」価格型で提供する、時代が求める新たな商品流通業の提案を意味しています。

「WR」は、ドン・キホーテグループが新たに実験を開始したプレミアムな会員制を採用しており、百貨店のようなゆったりとした店内に、定番品から最先端のデザインまで、約12万点のアイテムを取り揃え、“会員”に登録していただいたお客さまだけに、約3~4割程度お得な卸売り価格に近い“会員価格”で提供するシステムとしております。



当期の施策と業績予想

お客さま満足を最大化するため、付加価値商品の販売促進に注力。

1. グループ：事業効率のさらなる改善を進め、お客さま支持率の高い店舗運営に注力
2. 営業方針：個店毎の商圈内対応力を強化し、既存店の収益力を拡大
多店舗化に向けたMEGA業態の収益基盤を確立
訪日外国人の取り込み強化、「Visit Donki! 2011」キャンペーン開始
3. 商品戦略：定番商品の徹底したEDLPの推進
PB「情熱価格」ラインナップの拡充（新機能・こだわり商品など）
お客さま購入金額向上策の推進
4. 店舗戦略：設備投資額200億円+α
新規出店15店程度（14店は確定、閉鎖2店（うち1店は業態変更））
長崎屋からMEGAへの転換6店+再改装数店
DQ既存店の予想0.5%減（通期）
5. 財務戦略：1年内返済予定借入金及び同社債償還資金は「デットファイナンス」により調達予定
バランスシートの改善と資金効率の向上



<当初予想>

<前期実績>

（単位：百万円）

	金額	百分比	前期比	金額	百分比
売上高	258,000	100.0%	102.9%	250,698	100.0%
売上総利益	66,000	25.6%	105.1%	62,805	25.1%
販管費	54,000	20.9%	104.4%	51,704	20.6%
営業利益	12,000	4.7%	108.1%	11,101	4.4%
経常利益	11,200	4.3%	103.4%	10,833	4.3%
当期純利益	5,700	2.2%	93.4%	6,100	2.4%
1株当たり純利益	74.19円	—	84.3%	88.00円	—

※業績予想は、資産除去債務に関する会計基準の適用による影響を反映しております。

第2四半期・通期の連結業績予想

(単位：百万円)



	第2四半期			通 期		
	金 額	百分比	前期比	金 額	百分比	前期比
売 上 高	258,000	100.0%	102.9%	510,000	100.0%	104.6%
売 上 総 利 益	64,500	25.0%	102.7%	130,000	25.5%	105.3%
販 管 費	52,000	20.2%	100.6%	107,000	21.0%	104.5%
営 業 利 益	12,500	4.8%	112.6%	23,000	4.5%	109.2%
経 常 利 益	11,800	4.6%	108.9%	22,000	4.3%	104.2%
当 期 純 利 益	6,100	2.4%	100.0%	11,600	2.3%	113.3%
1 株 当 たり 純 利 益	79.39円	—	90.2%	150.98円	—	102.5%
設 備 投 資 額	—	—	%	20,000+ α	—	87.5%+ α
減 価 償 却 費	—	—	%	10,000	—	106.7%

「お客さま第一主義」と「企業価値の拡大」を追求し、引き続き増収増益決算を目指します。

フィデックとの連携強化

フィデック（8423）は、金融サービスとアウトソーシングサービスを融合した有望なビジネスモデルである「CFダイレクト事業」を行っているドン・キホーテの関連会社（2010年6月期より持分適用会社）であります。



<今後のビジネス拡大>

1. 「CFダイレクト」の認知度向上
2. バックオフィス機能のアウトソーシング化
3. ビジネス・ソリューションの提供

本日はありがとうございました。



IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドン・キホーテ 総合企画室

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

2011年6月期 第2四半期決算発表（予定）

決算発表日：2011年2月4日（金）

説明会会場：東京証券会館9F（東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

株式会社
ドン.キホーテ
Don Quijote Co.,Ltd.